



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 2918号 2016.3.18 発行

学齢期の発達遅れ支援 札幌市の協議会がガイドブック 北海道新聞 2016年3月16日
学齢期の子どもの発達の遅れや支援策を紹介した「こども発達支援ガイドブック・学齢期」



札幌市自立支援協議会こども部会は「こども発達支援ガイドブック・学齢期」を発行した。小学生～高校生の成長過程で、発達の遅れや障害が疑われる子どもたちの状態と接し方、障害を相談できる専門機関を紹介している。

部会は教育関係者や障害者事業所の代表者らで構成。今回のガイドは3年前に発行した「乳幼児期」の続編で、子どもの発達に関する知識や支援サービスを保護者と教育関係者に知ってもらおうと作った。

小学校低学年と高学年、中学生、高校生の各成長過程で「読み書きに時間がかかる」「相手の気持ちを読み取れない」など、発達の遅れや障害が疑われる具体的な事例を挙げた。その上で「肯定的な言い方で」「内容は具体的に」と、接する際に心掛けることを示した。発達に関する相談窓口や療育施設、受けられる福祉サービスも盛り込んだ。

A5判カラー22ページ。区役所などで無料配布している。市ホームページからもダウンロードできる。問い合わせは市障がい福祉課（電）011・211・2936へ。（根岸寛子）

児相職員 育成体制に不備...相模原市報告書 読売新聞 2016年03月16日

相模原市児童相談所（児相）の職員が一時保護中の少女たちを全裸にして所持品検査を行った問題で、市は15日、検証報告書と再発防止策を発表した。実務経験の浅い職員が様々な課題を抱える子供の対応に苦慮し、適切な助言を受けられる体制もなかったことが問題の背景にあるとし、基本動作マニュアルを策定するとともに、他自治体との人事交流、外部の専門家による指導などを通じて職員の育成を図っていくという。（矢牧久明）

報告書は全裸検査が発覚した昨年12月から今年8日にかけて、児相の一時保護所の職員50人（非常勤を含む）に聞き取り調査し、外部有識者の意見を踏まえてまとめた。

全裸検査は昨年8月、子供たちが職員に要望などを伝える「意見箱」の記入用紙が1枚なくなったことから、女性職員2人が少女9人に対して行った。

報告書によると、職員2人は当初、服のポケットの中を確認して所持品をチェックしようとした。しかし、以前に保護中の少女が売春に関するメモ書きを下着に隠していたことがあったため、女性上司が「その方法では不十分」と認めなかった。

これを受け、職員2人は、1人が少女の前に立ってタオルを広げ、周囲から見えにくい状況にしたうえで、少女にすべての衣類を脱いでもらい、もう1人が衣類を細かく調べる方法を提案。上司は「不正抑止になる」と実施を指示した。

報告書はこの点について「性急な対応」とし、「刃物などとは異なり、切迫した危険性があるものではなく、緊急に所持品検査を行う必要がなかった」と結論付けた。

相模原市児相は政令市移行に伴い2010年に開設され、一時保護所は14年に開所したばかりだ。報告書は「職員の実務経験が浅く、専門的指導、助言が十分に受けられる体制ではなかった」と指摘。「想定以上の困難に直面し、職員は適切な対応の判断に迷っていた」といい、「児童に向き合うよりも、問題を起こさせてはならないという管理意識が強くなっていったと考えられる」とした。

市は再発防止策として▽横浜、川崎市など他の自治体との人事交流▽所持品検査の具体的な方法などに関するマニュアル策定▽外部の専門家による定期的な専門的指導——などを挙げ、児相内部で人権侵害や虐待が疑われる事案が発生した場合は公表することにした。

記者会見した佐藤暁・こども育成部長は「人権研修を継続的に行い、子供の立場に立った施設運営ができるよう職員を育て、信頼を回復していきたい」と述べた。

“立法事実がない” 社会福祉法改悪案 小池氏が批判 しんぶん赤旗 2016年3月16日 質問する小池晃議員＝15日、参院厚生労委



日本共産党の小池晃議員は15日の参院厚生労働委員会で、社会福祉法人（社福）関係者から強い批判の声が上がっている社会福祉法改悪案についてただしました。

改悪案は、障害者福祉・保育などの事業を非営利で担う社福に新たに「無料・低額の福祉サービス」（地域公益活動）を提供する責務を課し、実態のない“内部留保”を「社会福祉充実残額」として公益事業などにあてる計画の作成を義務づけています。

小池氏は、改悪案が他の事業と同等の条件をとという理由で障害者分野の職員の退職手当共済への公費助成を廃止しようとしていることについて、労働条件の改善こそ必要だと強調。保育関係でも2017年度までに廃止を検討しているが、保育士不足の要因は待遇の問題と認め「待機児童ゼロ」をめざすとする安倍政権の方針とも矛盾していると批判しました。

地域公益活動の責務化について小池氏は「国が果たすべき役割を社福に肩代わりさせてはいけない」と強調しました。その上で、社福が「社会福祉充実残額」なるものをどれだけ保有しているか厚労省が何も把握していないことを確認。「実態がなければ立法事実がない。“内部留保”があると見込んで法律をつくるのは逆転している」と批判しました。

小池氏が、仮に「残額」が出ても本来の社会福祉事業に使うのが筋だと指摘すると、塩崎恭久厚労相は「職員の処遇改善を含む人材への投資など社会福祉事業への再投下を最優先とする。（本来の）事業の適正な運営への活用は担保されている」と述べました。

小池氏が、仮に「残額」すべてが本来の社会福祉事業のみに充当する計画でも認められるのかと確認を求めたのに対し、石井淳子社会・援護局長は「ご指摘の通り」と認めました。

国の責任 法人が肩代わり

社会福祉法等改悪案は、すべての社会福祉法人に対して、すでに実施している社会福祉事業とは別に無料・低額の福祉サービス提供の責務を課すとともに、「余裕財産」を地域公益活動へ投下することを義務づけるものです。

社会福祉法人に「内部留保」があるという前提に立って、営利企業との「公平性」を理由に規制強化を求める規制改革会議の要求を受けたものです。

社会福祉に対する国の責任を投げ捨て、貧困・格差の拡大や制度の遅れで生じた問題への対処を社会福祉法人に肩代わりさせるものです。利用者へのサービス低下や労働者のさらなる処遇悪化を招くこととなります。

また、障害者施設職員への退職共済の公費助成を廃止します。社会福祉法人の掛け金が大幅に増え、共済加入困難となる施設が増大します。極めて低い賃金水準の上、退職金も

保障されなければ、人手不足に拍車をかけることは明らかです。

評議員会の設置義務付けや介護福祉士の国家資格取得方法の見直しも盛り込んでいます。2015年7月の衆院厚生労働委員会で採決され、日本共産党は反対しました。参院に送られ、継続審議となっていました。

「日本死ぬ」匿名ブログ 28年度補正予算「待機児童」を柱に押し上げた！ 政府編成へ

産経新聞 2016年3月17日

政府は16日、停滞感の漂う景気をテコ入れするため、平成28年度補正予算案を編成する方針を固めた。低迷する個人消費の底上げを図るとともに、「保育園落ちた日本死ね」の匿名ブログで問題になった待機児童の解消に向けた対策を中心に盛り込む考え。4月から検討に入り、中国など世界経済の減速を踏まえた緊急経済対策をまとめる。総額は、今年1月に成立した27年度補正予算の3兆3千億円を上回る5兆円超になる見通しだ。

27年10～12月期の国内総生産（GDP）がマイナス成長になり、5月に発表される今年1～3月期のGDP速報値でもマイナスになる可能性がささやかれている。政府は、最近の経済指標で消費の不振が鮮明になったことを受けて、補正予算案の編成は不可避と判断した。

16日にスタートした閣僚と有識者が世界経済の現状を分析する「国際金融経済分析会合」の議論も参考に具体的中身を詰める。5月の主要国首脳会議（伊勢志摩サミット）で、安倍晋三首相が金融政策を補う機動的な財政政策の一環として表明する方向だ。

27年度補正予算は、3万円の臨時給付金を低所得の高齢者に配る消費刺激策を盛り込んだが、28年度補正予算案は子育て世代への支援に重点を置く。特に、首相が掲げる「1億総活躍社会」の実現に向け、待機児童の解消に向けた保育士の待遇改善策や、介護施設の整備などを盛り込むことを検討している。

政府内では、首相の経済政策ブレーンの本田悦朗内閣官房参与が産経新聞のインタビューで「最低5兆円規模の補正予算が必要だ」と主張している。今年夏の参院選を控え、与党内からは大幅な上積みを目指す声もあがりそうだ。

「日本障がい者サッカー連盟」創設へ 障がい者連盟会長に北沢豪氏

産経新聞 2016年3月17日

障害者サッカーの7団体を統括する「日本障がい者サッカー連盟」が創設され、会長に元日本代表の北沢豪氏（47）が就任することが16日、関係者の話で分かった。4月1日付で日本サッカー協会の関連団体として発足する。

日本協会は昨年、障がい者サッカー協議会を設置し、法人化の準備を進めてきた。現役時代から知的障害者の活動に携わり、一昨年の視覚障害者らによるブラインドサッカー世界選手権でアンバサダーを務めた北沢氏は「障害がある方もそうでない方も、全ての人が同じように夢を追えるような環境になってほしい」と話した。

国内の競技人口は知的障害者が5千人を超える一方、主に片脚を切断した人によるアンブレティサッカーは100人に満たない。ルールなども異なるため独自色が強かったが、今後は日本協会を中心に2020年東京パラリンピックに向けて普及に取り組む。



出石特別支援学校みかた校で初めての卒業式 香美

神戸新聞 2016年3月16日

松本茂樹校長から卒業証書を授与される生徒＝県立出石特別支援学校みかた校（香美町）

兵庫県美方郡の障害児教育の拠点として昨年4月

に開校した県立出石特別支援学校みかた校（香美町村岡区川会）で16日、初めての卒業式があった。中学・高等部の計5人が晴れやかな表情で卒業を迎え、同校での生活を振り返った。

これまで知的障害のある子どもは豊岡市の出石特別支援学校などに通っていた。遠距離通学などの解消を求める保護者らの強い要望もあり、旧射添中学校の校舎を改修してみかた校が誕生した。

宇治の街ぐるみ認知症支援 広がれ、本人意思の尊重 京都新聞 2016年3月16日



南部支社 今口規子

認知症フォーラム i n 宇治の内容について話し合う認知症の人や家族（宇治市五ヶ庄・府立洛南病院）

昨年、国内の自治体で初めて「認知症の人にやさしいまち・うじ」を宣言した宇治市で、街ぐるみで認知症の人を支えるネットワークが全国に先駆けて動き出す。「宇治市認知症アクションアライアンス（通称・れもねいど）」。英国の取り組みをモデルに、医療や福祉、介護関係者だけでなく金融機関や交通機関、商店なども参加する。認知症の人を「支援される側」と固定せず、ともに社会を

築く仲間と捉え、本人と家族がワーキングチームの一員として施策の立案から評価まで関わるのが大きな特徴だ。今後の展開が注目される。

「認知症は一部の機能低下が起こるだけ。人間が持つ力が全部崩れるわけではない」。種智院大（京都市伏見区）事務長だった2014年にアルツハイマー型認知症と診断された杉野文篤さん（62）＝伏見区＝は強調する。

杉野さんは昨年、認知症であることを公表した。「認知症初期に能力が継続できれば、自分らしく生きていける」。各地で講演し、近所の高齢者サロンに卓球をすることを提案したり、大学教授に若年性認知症患者の居場所づくりについて相談したりする。

ワーキングチームに加わり、左京区で来春開かれる国際アルツハイマー病協会の国際会議を運営する委員も務める。「絶望からはい上がろうとしている人に、私のような人間がいると知ってもらいたい」。病気に向き合い活動的な姿は、多くの人に勇気を与えている。

しかし杉野さんは認知症と診断された当時、本人を見ずに家族にばかり話をする医療関係者の態度にショックを受けた。腹が立ち、病院に行きたくないと駅の改札から動かず、妻の由美子さん（60）を困らせた。仕事や生活について相談できる場がなかった。引きこもっていた時期もある。認知症への偏見や思い込みが苦しめたのだ。

「認知症の人たちの『私たち抜きで私たちのことを決めないで』という当たり前の思いを大切にしなければ」。中心メンバーで府立洛南病院（宇治市）の森俊夫医師は指摘する。95歳まで生きたとすると、92%が認知症や軽度認知障害になるという。超高齢社会の中、いずれ自分もかかる病気だ。ネットワークの始動で本人の意思を尊重する動きが広がるよう願う。

またチームは、認知症を生きる過程は3段階があるとして各段階の本人や家族の思いを書いた冊子「旅のしおり」を作成している。森医師は「内側から眺めて初めて社会の不備が捉えられ、どんなサポートが必要なのかが分かる。認知症の人に必要なサービスを開発する企業も出てくるかもしれない」と期待する。

しおりは21日、ネットワーク始動を宣言する認知症フォーラム i n 宇治で配布される。私たちの人生を照らす光になるはずだ。

奈良・達磨寺の会式の題字、王寺の書家が贈呈

産経新聞 2016年3月17日

王寺町の達磨寺で4月9日に行われる諸願成就の伝統祭事「達磨会式」の題字を同町出身の書家・高岡哲也さん（31）が書き上げ、同町に贈呈した。題字は達磨会式のロゴマークとしてポスターやチラシ、のぼりなどに使用される。

達磨会式は、明治24年の鐘楼堂再建のときから続く伝統祭事で、毎年多くの町民でにぎわう。町では今回、「力強さ」が高く評価されている高岡さんの作風が祭事のイメージに合うとして、題字の作成を依頼した。

高岡さんは生まれつき脳性まひの障害があり、話すことや歩くことが困難。日ごろは電動車いすで生活している。県立養護学校中等部1年のときに書道に出会い、県心身障害者作品展で優秀賞を獲得するなど、受賞歴も多数。県内外で個展も開催している。

町役場で行われた贈呈式では、高岡さんが70センチ四方の和紙4枚に書いた作品を平井康之町長に贈呈。養護学校教諭だった15年前から高岡さんに書道を教えている明珍さつきさん（67）も同席し、高岡さんが唯一動く左手で字を書いていることなどを説明、「『達』の字のしんにように、はらいが得意な哲也さんらしさが表れています」と話した。平井町長は「今後達磨会式に限らず、町のさまざまな行事で協力していただきたい」と述べた。

今年の達磨会式は4月9日午前10時から同寺境内などで開催。寺に隣接する片岡の里保育園の園児らによる野だて（無料）や、座禅体験ができる「こども座禅会」（大人も可、要申し込み）を実施。園児が稚児衣装をまとい境内を練り歩く「稚児行列」などもある。問い合わせ、申し込みは、町観光協会（電）0745・33・6668。



おもちゃの病院

カンテレワンダー 2016年3月15日
家で子どもが遊ぶおもちゃが壊れてしまったらどうしますか？修理をせずに捨ててしまうことも多いと思います。そんな時、壊れたおもちゃに息を吹き返す”おもちゃの病院”があります。こどもにとって大切なおもちゃ。気に入ったら一日中、離さない子もいますよね。

そんなおもちゃを解体したり...ん？何やらドライヤーで温めている人も。

【男性】「チューブを縮めているんですよ」

【男性】「接触不良で音が出なかった。アルコールで拭いたんですよ」

ここは、壊れたおもちゃを直す、名付けて『おもちゃ病院』です。

奈良県内の公民館などで月に一度”開院”していて、思い入れがあるけど壊れてしまったおもちゃを、親子連れたちが“ドクター”のもとに持っていきます。

【母親】「おもちゃが動かなくなると（子どもが）悲しそうだったので、ここのおもちゃ病院には毎月来ておもちゃを直してもらっているんで、今回も直してもらおうと思って来ました」

【母親】「好きで使っているおもちゃなので、使えるようになると助かります」

部品代はかかりますが、修理費はなんと無料。

修理を担うドクターは皆おもちゃ屋さん...ではありません。

【ドクター歴4年目の男性（75）】「(前の仕事は) 工場の建設ですわ」



(Q:なぜドクターを始めたんですか?)

「好きだからですよ」

【ドクター歴3年目 元電機メーカー勤務の男性(67)】「細かいことが好きで、皆さんとお話するのが楽しいですね。色んな専門の人がいるので、そういった知識とかをお話するのが非常に面白いです」

ドクターのほとんどは、定年退職をした人たち。機械いじりや電子部品が好きなシルバー世代が中心で、以前の職業は様々です。

生島幸弥(72)さんは奈良で第1号の”おもちゃドクター”です。

【元テレビ局勤務 生島幸弥さん(72)】「昔は今みたいにホームセンターもないし、部品もなかなか手に入らないし、なかなかできなかったんですが、高齢者になってきて時間もある程度できたんで、昔の夢をちょっともう一回やってみたいなど」

【母親】「(おもちゃの犬が)歩かないんで...」

【ドクター】「なんか折れてそうな感じがしたけど」

【別のドクター】「骨折かな」

大切なお友達、元気な姿を取り戻せるのでしょうか。まずはどこをケガしているのか、診察します。

【ドクター】「あっ、ここだな」

原因を突き止めたら治療開始!

【母親】「直った!良かったね。動いた動いた」



(喜ぶ女の子)

ドクターたちは、年間2800ほど診察に来るおもちゃの9割以上を直すそうです。とはいえ...

【ドクター】「どうなるべきなの?これ。音が出て光る?」

【別のドクター】「スターウォーズの」

【ドクター】「知らないよ...」

こんな時は、みんなで知恵を絞ります。

【ドクター】「回すのかな~?」



【別のドクター】「元が分からないからね」

【ドクター】「断線やね」

その場で治療できなかった手強いおもちゃは、ドクターが家に持ち帰ります。

生島さん、今では一日中、おもちゃに夢中です。

【生島さん】「直ればある種の達成感があって、夜も良く眠れると。どうしても直せないのがあるとやっぱり、寝ながらでもどうすればいいのかなとあれこれ考えることがあったり。その中でパッと閃いて、

やり方を考えることもありますね。それはまたそれで、そういうことを考えているのが楽しいというか」

月に一度の『おもちゃ病院』の日がまたやってきました。

苦労していたあのおもちゃも男の子の手に戻りました。

【男の子】「ありがとう」

【生島さん】「直ったおもちゃを見た時の子どもさんの笑顔、目の輝きというのは素晴らしいものがあるので。本当にやっていてやり甲斐を感じて嬉しく思います。我々としてはいろいろ努力しておもちゃを直すことが一つの挑戦というか、楽しみというか。それから子どもさん



が喜んでくれること...その二つが一番大きなところでですね」
病院には笑顔がいっぱい。そんな“おもちゃの病院”は子どもたちを待っています。

関西に「こうのとりのゆりかご」 母子支援団体、準備へ 京都新聞 2016年3月16日
望まない妊娠に悩む女性と、生まれてくる赤ちゃんの命を救うための施設「こうのとりのゆりかご in 関西」を作ろうと、近畿で母子支援に取り組む市民グループが準備を進めている。19日に実行委を発足させ、今後1～2年内の設置を目指すという。

新生児を匿名で受け入れる「こうのとりのゆりかご」は熊本市の慈恵病院が2007年に設置し、24時間体制の相談も行ってきた。昨年度末までに112人の赤ちゃんが預けられ、関西在住の女性が熊本へ行き、利用したケースもあった。

このため、母子支援を行う「円ブリオ大阪」や「円ブリオ神戸」、「京都小さな生命を考える懇談会」など、京阪神の市民グループは、近畿圏内でも同様の施設整備が欠かせないとの思いで一致。実行委員会の代表を務める人見滋樹京都大名誉教授は「赤ちゃんを受け入れるだけでなく、お母さんの悩みに寄り添える施設になれば」と話す。

19日午後1時半から、大阪市北区の市立住まい情報センターで人見代表の講演などを行う。前日までに実行委事務局の広中さんTEL072(763)4571に要申し込み。参加費千円。

■こうのとりのゆりかご(赤ちゃんポスト) 新生児の遺棄や人工妊娠中絶をなくす目的で設置された。当初は「子捨てを助長する」との議論もあったが、熊本市の検証報告では、相談業務との一体的な運営などが評価されている。



青い東京タワーでイベント 産経新聞 2016年3月16日
4月2日午後6時15分から厚生労働省などが主催し、東京タワーのブルーライトアップ点灯式が開催される(提供写真)

世界自閉症啓発デーの4月2日、東京都港区の東京タワー広場で午後2時から、大道芸や「自閉症体験」のワークショップなどのブースが出店される。午後4時からバリアフリー・ロックバンド「サルサガムテープ」らが出演するライブも。

午後6時15分から厚生労働省などが主催し、ブルーライトアップ点灯式が開催される
世田谷区役所もブルーに



ブルーのハート(協力:ハートアート、西村公一さん、提供写真)

世界自閉症啓発デーに向け、世田谷区役所第2庁舎が3月28日から4月8日まで、ブルーのハートでデコレーションされる。

4月1日には午後12時から世田谷区役所本庁舎中庭で、「障害者差別解消法」の施行を記念したセレモニーが開かれ、東ちづる(Get in touch代表)も参加。さまざまな障がいをもつ当事者も集まり、風船や記念品を配布する。

SATCH VIEWER を今すぐゲット!

「ゲットちゃんマーク」(提供写真)

AR(拡張現実)アプリ「SATCH VIEWER (by KDDI)」をスマートフォンなどにダウンロードし、「ゲットちゃんマーク」にかざすと、Get in touchが主催する「Warm Blue2016」のイベント情報を集めた「Warm Blue 特設サイト」にアクセス可能。最新の情報はもちろん、特製フォトフレームなどのスペシャルコンテンツも入手できる。



アプリで撮影した写真に「#WBD2016」「#mazekoze」「#LIUB」をつけてSNSに投

稿すれば、世界中のブルーフォトにつながっていく。(一般社団法人「Get in touch」編集部/SANKEI EXPRESS)

【ガイド】 特設サイトは3月20日にオープン。詳細はviewer.satch.jpで。

アルツハイマー、記憶はあるのに… 呼び出せず物忘れ 朝日新聞 2016年3月17日
アルツハイマー病の初期の物忘れは、記憶がないわけではなく、記憶を呼び出せないのが原因であることを理化学研究所脳科学総合研究センターの利根川進センター長らのチームがマウスの実験で示した。記憶を担う細胞を人為的に活性化させることで特定の記憶を呼び戻せた。17日付英科学誌ネイチャーに発表する。

アルツハイマー病では1日前に会った人を忘れるなどの記憶障害が現れる。

健康なマウスに弱い電気を流すと体を一瞬すくませる。箱に入れてから行くと、怖い経験として記憶に残り、箱に入れただけですくむようになる。一方、遺伝子操作で初期のアルツハイマー病に似た脳の変化を起こさせたマウスは、1日たつと怖い記憶を思い出せないため、箱に入れてもすくまない。

チームは、このアルツハイマー病マウスに、電気を流した時に脳で活動する神経細胞群が、光を当てた時だけ活性化するような特殊な遺伝子操作をした。すると、怖い経験から1日たつても、光を当てるとすくみ行動を示し、記憶が残っていることがわかった。

さらにアルツハイマー病マウスでは、神経細胞群のつなぎ目にある突起状の構造が減少し、細胞群の活性化がうまくいっていないこともわかった。チームは、これが記憶を思い出せなくなる原因だとみている。(瀬川茂子)

カモン、コンビニ！大阪で唯一コンビニのない千早赤阪村が4月から誘致作戦 開店経費補助へ 産経新聞 2016年3月16日



コンビニよ来れー。大阪府内43市町村の中で、唯一コンビニエンスストアがない千早赤阪村が4月から、誘致策に乗り出す。村は面積約37平方キロと吹田市(約36平方キロ)とほぼ同じ大きさだが、商店は少なく、多くの村民は村外に出かけ、買い物をしている。村が取り組むのは店舗開店に必要な経費補助で、担当者は「少しでも住みやすい村にしたい」と話す。(藤崎真生)

千早赤阪村は奈良県御所市と接する府県境にあり、日本の棚田百選に選ばれた下赤阪の棚田など豊かな自然が特徴。しかし、府内で唯一の「過疎地域」に指定され、村内の大半が開発に規制のかかる市街化調整区域。人口は府内最少の約5400人で、交通量も極めて少ない。村民は隣接する富田林市や、河内長野市などに買い物に出かけているのが現状だ。

そうした中、人口減少対策のため、今年1月、2040(平成52)年の目標人口を約6千人とする「総合戦略」を策定。その一環として、「コンビニ」など商業施設誘致のために、新年度予算案に400万円を計上した。村内で店を開く人に開店に必要な経費を一部補助する。補助額は検討中だが、スーパーなどの小売業では上限300万円程度、コンビニについては額を「もう少し上乘せする」(村担当者)という。29年度以降も補助を続けるのかどうかは今後、検討する。コンビニや商業施設が進出すれば、固定資産税などによる税収増や、アルバイトを含む雇用増も期待できる。

村の担当者は「村内で買い物ができる場所を増やし、住民の利便性向上を図りたい」と熱を込める。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行

